

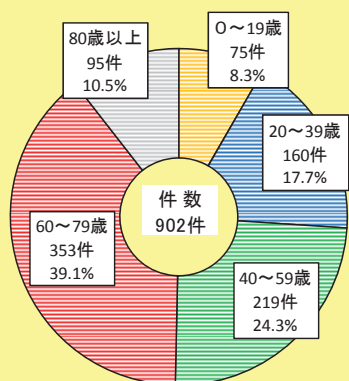
参考資料

- (1) 踏切事故の状況
- (2) ホームにおける人身障害事故の状況

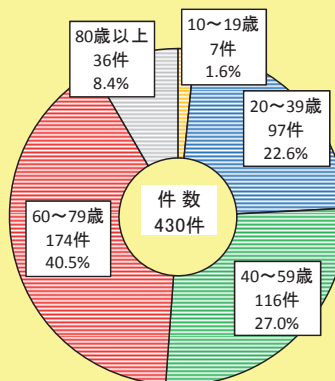
(1) 踏切事故の状況

- 踏切事故については、高齢者が関係するものが多く、平成22～24年度に発生した事故902件¹のうち448件(49.7%)を60歳以上の事故が占めています。また、衝撃物別である自動車だけをみても430件のうち210件(48.9%)を60歳以上の方が占めています。
- 高齢者の関係する事故に関しては、例えば、平成22～24年度に発生した運転者が60歳以上の自動車の第1種踏切道における踏切事故156件のうち、停滞²によるものが73件(46.8%)を占めるなど、特徴があります。
- このような特徴を踏まえ、踏切支障報知装置の整備等を推進する他、自動車が踏切道から出る前に遮断機が閉じたときにはそのまま進行し遮断機を自動車で押し上げて脱出できることの周知を図るなど、今後も事故防止を図っていきます。

① 関係者年齢別の踏切事故件数

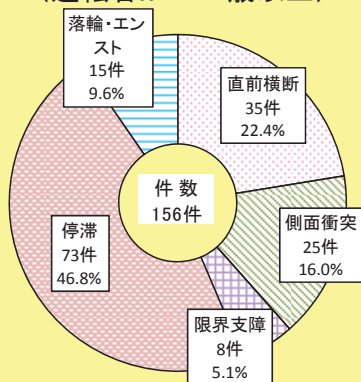


② 関係者年齢別の踏切事故件数（自動車）

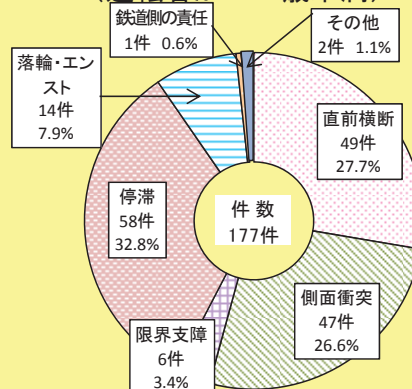


③ 第1種踏切道における自動車の踏切事故の原因別件数

(運転者が60歳以上)



(運転者が60歳未満)



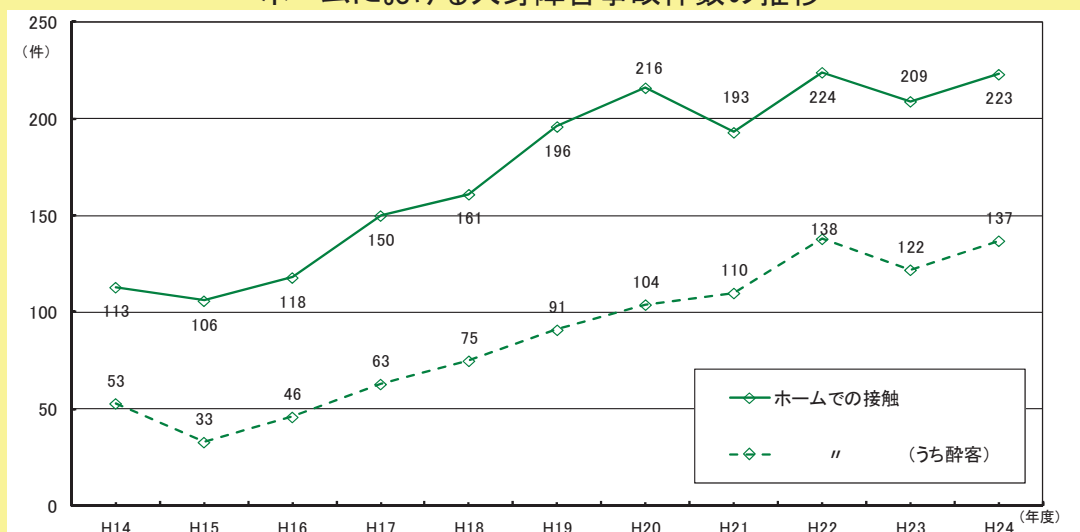
¹ 平成22年度303件、平成23年度331件及び平成24年度295件の計929件から、関係者の年齢を把握できなかった27件を除いた件数。

² 第1種踏切道における自動車の「停滞」による踏切事故とは、踏切道から出る前に遮断機が閉じた、前方の道路が渋滞していたなどにより、自動車が踏切道内に停滞していたことによる事故のことです。

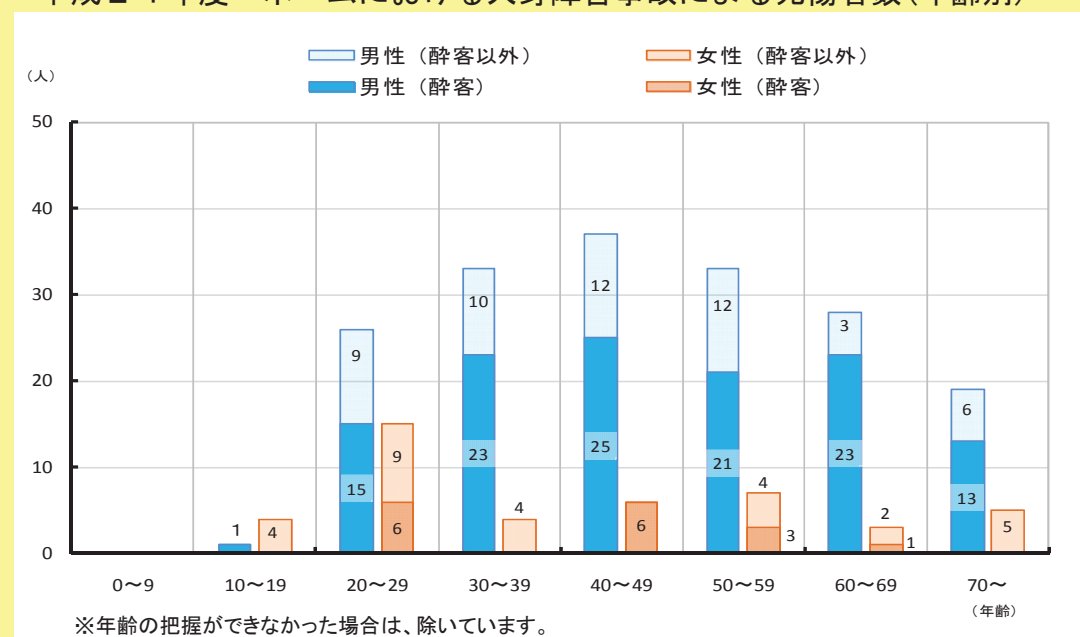
(2) ホームにおける人身障害事故件数の状況

- 平成24年度に発生した人身障害事故は429件で、運転事故全体の52.9%を占めており、このうち、「ホームから転落して接触」と「ホームでの接触」を合わせた「ホームでの接触」による人身障害事故は223件で、人身障害事故件数の52.0%を占めています。
- 人身障害事故のうち、酔客に係るものは137件(61.4%)で同15件(12.3%)増でした。
- また、ホームから転落して接触した人身障害事故は、非常押しボタンの整備等の対策が進められているものの、減少までには至っていません。

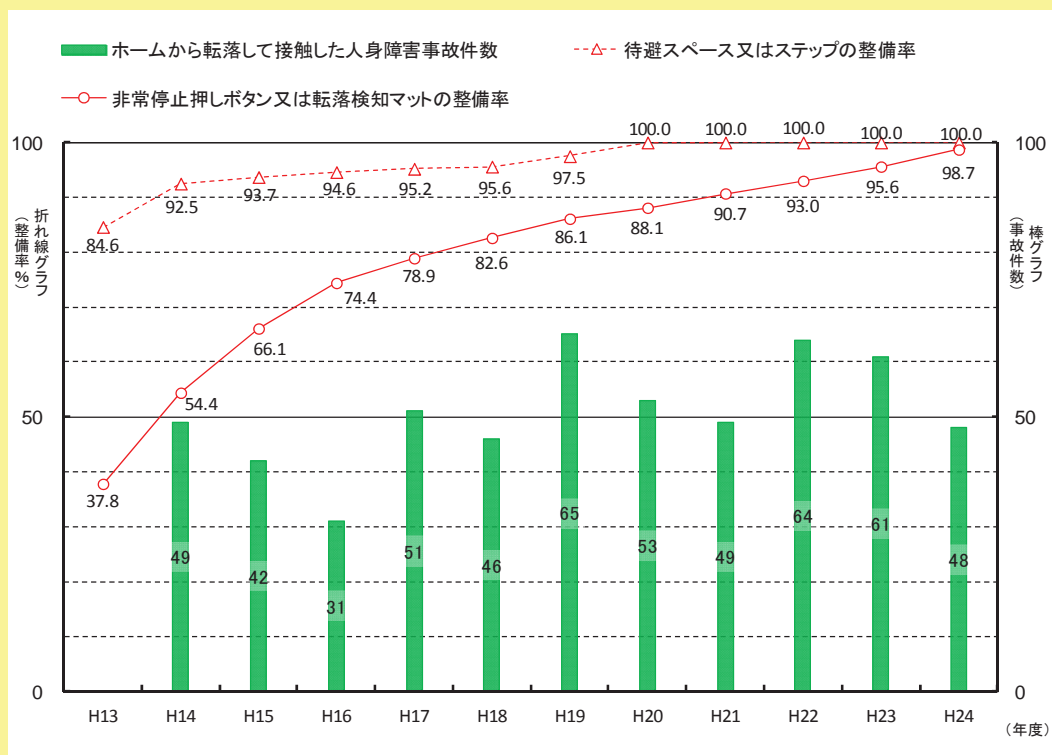
ホームにおける人身障害事故件数の推移



平成24年度 ホームにおける人身障害事故による死傷者数(年齢別)



ホームの安全対策とホームから転落して接触した人身障害事故件数の推移



※非常停止ボタン等の整備については、ホームへの列車の進入速度が概ね60km/h以上、かつ、運転本数が1時間あたり概ね12本以上の列車が通過又は停車するホームが対象

鉄道の安全性を更に向上させるために鉄道事業者による安全対策の充実に加え、鉄道利用者、踏切通行者、鉄道沿線住民等の理解と協力が不可欠です。このため国土交通省では、利用者等が正しく理解して守るべき共通の約束事をまとめた「鉄道の安全利用に関する手引き」を作成しております。詳しくは、<http://www.mlit.go.jp/common/000128837.pdf> をご覧ください。